

(4) ①様式第4号-2 (報告書)

NITS カフェ報告書	実施機関名・連携機関名 福岡教育大学 (大学院教育学研究科 教職実践専攻)
※ 機構記入欄 No. : -	セミナー名: NITS カフェ in 宗像 災害後のケアについて考えよう～私たちにできること～
<p>テーマ：9月14日は宗像市の防災の日である。学校現場での防災・減災に対して、学校現場で具体的に何をしていくか、また、災害が発生した後のケアについて、どのようなことが必要かについて考え話し合い、今後の具体的な対策や相互の連携強化につなぐ。「災害後のケアについて考えよう」をサブテーマとする。</p>	
<p><b>内容：</b></p> <p>1 事前研修・打ち合わせ (1) 事前研修 NITS カフェ in 宗像では、参加する中学生に対して教職大学院院生と学部生がファシリテーターを行う。そのための事前研修会を行なった。</p> <p>(2) 打ち合わせ NITS カフェ in 宗像は、市教委、中学校、教職大学院が共同して行うため、3者の代表者が集まり、3度行なった。9/10には、当日講師の柴田敏博氏も参加した。</p> <p>2 当日 (1) 準備 前日行なった会場準備に加え、実施に向けた最終打ち合わせを行なった。</p> <p>(2) 講演 本日の趣旨説明を本学の教員が行なった後、柴田敏博氏（熊本県益城町教育委員会 防災教育担当）から、熊本の被災地での被災者への対応、避難所の運営を中心としたお話を伺った。</p> <p>(3) グループディスカッション 院生と学部生がファシリテーターとなり、中学3年生と一緒に「災害後のケアとして避難所で何ができるか」をテーマとして、話し合いを行なった。</p> <p>(4) まとめ 柴田敏博氏に対する謝辞を中学3年生が行なった。</p> <p>※参加者：296名（講師1名、教育委員会4名、学校教員13名、地域の方5名、大学院教員4名、中学生217名、大学院生46名、学部生6名）</p> <p>3 事後 NITS カフェ in 宗像でのグループディスカッションでの内容をグループごとに院生が整理し、講師の講演資料と宗像市消防署が作成している救命講習リーフレットも含めて冊子として作成し、宗像市内の学校に配布する。</p>	
<p><b>成果：</b></p> <p>参加した中学3年生は、謝辞で「この学習会を今後も行なって欲しい」と述べた。教育委員会と地域の方、学校教員もこれまで災害後のケアについては、あまり考えていなかったが、今後考える必要性があるという認識を得た。（後日、必要性和意義を感じた教育委員会が、柴田氏を招聘した管理職研修会を実施した）また、教職大学院と教育委員会との関わりが、事前打ち合わせや院生と中学生の充実した交流で深まった。</p> <p>院生からは、自身が避難所運営にあたることを現実的に捉えることができ、心構えができたという言葉が聞かれた。</p>	

**アイデアや工夫したこと：**

- 1 テーマに関心の高まりがあり、自身の関わりが深いものとしたこと
- 2 実施に先立ち、打ち合わせや事前研修会実施したこと
- 3 一過性のものとすることなく、本カフェにより災害に対する関心を高めることや、教職大学院と教育委員会との連携を深めるものとする事ができるように、冊子を作成して配布したこと。

**<写真・図など>**



中学校生徒が入場し座席を案内する大学院生



柴田敏博氏の講演(益城町教育委員会)



グループワークに取り組む院生と生徒たち



グループワークに取り組む院生と生徒たち



付箋に書かれた生徒たちの考え